

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2023年度 助成者)

作成日 2023年 8月 24日

氏名 (フリガナ)	山岸治輝 (ヤマギシハルキ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2023年8月14日 (月) ~ 8月19日 (土)
大学名	福井大学
学年	5年

私は将来的にオーストラリアでドクターとして活躍したいという夢があり、来年オーストラリアのメルボルン大学で1ヶ月の **Clinical Placement** を控えています。しかしながら、英語圏の病院で実習できるのか若干の不安があり、今回の **Hawaii Tokai International College** の医学英語研修に参加させていただきました。

授業は朝から晩まであり、主に症例報告と問診を英語で行う練習をしました。授業スタイルは日本とは全く異なり、**problem based learning** に準じて能動的に考えるスタイルでした。授業で正しい型を学び、様々な症例を用いてロールプレイングによるシュミレーションを行いました。ハワイ大学医学部の学生や現場の医師から直接アドバイスを頂き、回数をこなすことで最終的に形になっていきました。ハワイ大学の学生の医学知識の豊富さにはとても驚きました。もはや言葉の壁とかいう話ではなく、日本の医学生より圧倒的に勉強量が多いと感じました。それは日本の基準で満足しては世界では通用しないことを意味しており、英語だけでなく医学知識全般に関しても更なる勉強が必要だと感じました。**Special lecture** ではアメリカのレジデントマッチングに参加する方法を学んだり、実際に現場で活躍されている先生方と未来の医療について考えたりしました。特に心に残っているのは、マレーシアの田舎生まれ日本の医学部卒で渡米された **Lim** 先生のお話です。現場で働く上で重要なことは、病院のスタッフと円滑なコミュニケーションをとることであり、これを達成するには確固たる自信とお互いのスキルをリスペクトする気持ちが必要。また、“何でも挑戦しましょう、**If you do not try, your chance of success is zero. If you do try, your chances may be low but they will be definitely better than zero.**” という先生のお言葉は心に刺さりました。たくさん失敗してもいいので何でも挑戦してみます。海外でドクターとして活躍することは決して不可能なことではないと再認識しました。

また、今回参加していたメンバーは皆海外志望であり、将来の具体的なビジョンが明確でとても感銘を受けました。5年生で既に **USMLE step1** に合格していたり、海外臨床実習を終えていたり志の高いメンバーばかりで、自分の大学のコミュニティだけでは出会えないような方たちばかりでした。意識の高い方々とお話することで、当たり前前のレベルがさらに高くなった気がします。またほとんどのメンバーは来年の海外臨床実習にも参加予定であり、同時期に同じオーストラリアで実習予定の方もおられました。全国各地から集まったメンバーで、同様の目標について真剣に議論した時間はかけがえのないものです。またどこかで再会した時に恥ずかしくないように、自分も精一杯頑張ろうと思いました。また、休み時間にみんなでハワイ料理を食べに行ったり、ビーチや美術館に行ったりする中で、仲を深めることができました。授業前に近くのビーチに泳ぎに行き、朝ごはんはアメリカンサイズのエッグベネディクトを食べたことが一番の思い出です。彼らとはこれからも連絡を取り続け、お互いの夢を尊重し応援し合える関係になっていければと思います。

今回のプログラムに参加して分かった特に重要なことは3つあります。1つ目は、自分と同じような夢を持っている人が他にもいるということです。狭いコミュニティの中に籠っていても、なかなか共通の目標を持つ人と出会うのは困難でした。このコネクションをこれからも最大限に活かしていきたいです。2つ目は、まだまだ自分の英語や医学知識全般についてまだまだ不足があることです。アメリカに滞在することで、まず英語はゴールではなく単なるツールであると感じました。また、医学知識に関しても日本語であや

ふやな知識が英語で通用するはずがないので、この点に関しても更なる勉強が必要と感じます。3つ目は、夢は必ず叶うということです。現地で活躍されている先生方は皆、夢を現実にしてこられた方々です。私も何回失敗しても諦めることなく挑戦し続け、必ずや夢を叶えたい思いです。

私は現時点でアメリカ、イギリス、オーストラリアの3カ国でそれぞれ1ヶ月ずつ病院実習をする予定をしています。今回学んだ内容を大いに活かせるように復習は必須です。これらの実習では、3カ国の特に **Family medicine** や **General Practitioner** 制度に注目しています。日本は、高齢化に伴う疾病構造の生活習慣病への移行によりいわゆる“かかりつけ医”の需要が増しており、かかりつけ医の制度化を目指す議論が活発に行われています。このような背景を鑑みて、将来はいずれかの国で **Family doctor** または **General Practitioner** として経験を積みたいと考えるようになりました。最終的には、そこで得た知識やスキルを日本に持ち帰ることで、より多角的な視点から地域医療の持続性の切り札を考える一助になりたいです。

最後に今回のプログラムに関わってくださったすべての方々に感謝申し上げます、ありがとうございました。